

学校関係者評価報告書

【評価対象期間】 自：2019年4月1日

至：2019年12月31日

【評価基準日】 2020年1月1日

学校法人 麻生塾
麻生工科自動車大学校

目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況	- 3 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針	- 3 -
2. 学校関係者評価委員名簿.....	- 3 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況	- 3 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法	- 4 -
5. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方	- 4 -
II. 学校関係者評価委員会報告.....	- 5 -
1. 重点項目について	- 5 -
2. 基準項目について	- 6 -

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者・地域住民などの学校関係者が、麻生工科自動車大学校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

2) 基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

2. 学校関係者評価委員出席者名簿

区分	氏名	所属(役職)
業界関係者	市川 利治	福岡トヨタ自動車株式会社 (常務執行役員)
業界関係者	小林 丈郎	ダイハツ工業株式会社 (主査)
業界関係者	鳥屋 八州紀	福岡トヨタ自動車株式会社 (課長)
高 校	佐伯 道彦	福岡工業大学附属城東高等学校 (校長)
地域住民	村上 伸二	東比恵2丁目町内会 元会長
保護者	古田 夏子	1級自動車整備科 保護者
卒業生	杉本 誠	平成22年度 2級自動車整備科 卒業生
卒業生	武田 真秀子	平成23年度 1級自動車整備科 卒業生

※区分別、五十音順、敬称略

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時：2021年 1月21日(木) 15:00 ～ 16:20

場 所：Web 会議

4. 学校関係者評価委員会の実施方法

学校関係者委員の皆さまに、2019年度の実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告し、評価結果に対する意見をいただく。

5. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方

2019年度の自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果および課題・解決方向について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- (1) 自己評価結果の内容が適切かどうか
- (2) 今後の解決方向が適切かどうか
- (3) 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- (4) その他、学校の運営に関する助言

II. 学校関係者評価委員会報告

1. 重点項目について

【取り組み状況について】

① 資格試験および合格率の向上と取組みの成果を上げる

国家1級自動車整備士試験について、近年国家試験の状況に関し、他校へのヒアリングや傾向分析した上で検定対策資料の改定を定期的の実施し、整備知識（診断能力・新技術）について理解の向上を進めると共に学生のモチベーションアップを図っている。

② 学科のカリキュラムを順次性のある授業科目の体系的に配置する。

カリキュラムツリーやカリキュラムマップについては担当者や作成方法が明確でなかったためカリキュラムについての研修会に参加し、必要性を確認し、各学科にて作成に着手した。

③ 留学生に対する相談体制の整備

教務にて留学生対象の在校生アンケートを実施した。今後はアンケート取得も継続して行い、取得した意見を基に留学生の就学・生活環境の整備を図っている。

【委員からの意見】

- ・国家試験合格率は学校にとって非常に重要な使命ですので安定して結果が出る仕組みを早急に確立してください。
- ・留学生独自の問題があると思いますが、安心して留学の目的が達成できるようにご尽力ください。

【課題】

① 資格試験および合格率の向上と取組みの成果を上げる

学生の理解度不足 作成資料の一部未完成 指導力不足 検定対策実施要領などが原因で年度によって大きく合格率に差がある。

② 学科のカリキュラムを順次性のある授業科目の体系的に配置する。

カリキュラムツリーやカリキュラムマップの必要性を理解していなかったため着手が遅れ、担当者に一任していた

③ 留学生に対する相談体制の整備

国際交流センターとも連携し各種のアンケートを実施し、留学生が持つ問題を大まかに把握することができたが、相談体制の整備や改善には至っていない。

【改善の方法】

① 資格試験および合格率の向上と取組みの成果を上げる

年度を通しての計画を実施 検定対策時期や方法の改善 未完成資料の早期完成

② 学科のカリキュラムを順次性のある授業科目の体系的に配置する。

各学科の責任者を中心に、カリキュラムマップ研修会内容を基に、カリキュラムマップとカリキュラムツリーを制作する。

③ 留学生に対する相談体制の整備

学生への情報提供や相談ができるシステムの構築に着手した。

2. 基準項目について

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

学校関係者評価結果： 適正

【取り組み状況】

- ・学校として教育に関する内部質保証のためのPDCAサイクルの起点として機能するよう、学生が身に付けるべき資質・能力の目標を明確化する為に「学校の教育理念」の明文化が求められるので今年度は「学校の教育理念」を本部と共同で作成した。
- ・学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図る為、以下の内容と併せてWebサイトにて社会に公表した。

【委員からの意見】

- ・各理念等を適切に策定し、周知を行えていると思う。
- ・大変わかりやすく公表いただいていると判断します。

【課題】

年度当初の時点では「学校の教育理念」を本部と共同で作成したが、制作に時間を要した為、Webサイトでの公開までには至っていなかった。

【改善の方法】

「学校の教育理念」について、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図る為、「法人の理念」「学校の教育理念」「学科の教育目的・育成人材像」を本部と連携を図った上でWebサイトにて社会に公表している。変更等があれば随時対応する。

基準 2 学校運営

学校関係者評価結果： 適正

【取り組み状況】

- ・麻生塾本部の運営方針を共有策定し周知している。
- ・学校業務については学内の事務局の他にグループ本部内に人事、経理、留学生窓口など様々な支援組織が設置され、十分に機能している。また、事務職員は意欲・資質の向上を図るために本部及び外部主催の研修に計画的に参加している。

【委員からの意見】

- ・規定や制度について、しっかりとした標準化がなされている印象である。
- ・運営計画や事業計画は、周知するだけでなく、計画した戦略を意図通りに動かすためのメンバーの意識改革の手法などを評価基準に制定してみてはどうか。
- ・今後は社会的にも不確実性が高い状況が続くことが予想されるので、規定等を整備される場合は、かえって業務が複雑化しないよう留意して行ってください。

【課題】

事務局職員について、外部研修に参加しているが記録資料を作成していない。

【改善の方法】

今後も定例のリーダー会議や全体会議といった意思決定システムや麻生塾システム・デスクネットを有効活用し、業務の効率化を継続する。事務局職員についても研修計画表を作成する。

基準 3 教育活動

学校関係者評価結果： 適正

【取り組み状況】

- ・学則及び成績評価、進級および卒業に関する規定内で教育目的および育成人材像に基づき進級・卒業要件を明示した上で、学校構成員に周知している。また、成績評価及び卒業・進級条件についてはHPを通じて社会に公表した上で定期的に検証を行っている。
- ・カリキュラム及びシラバスにてカリキュラムポリシーを明示し学校構成員に周知している。また授業科目等の概要においてはHPを通じ社会に公表し、定期的に検証を行っている。

【委員からの意見】

- ・中項目3-1 適切な運用が行えているように思う
- ・中項目3-2 教育内容の充実化及び評価が適切に運用されているように思う。特に企業等との連携は、業界の特徴や求める人材などのリアルタイムな情報を把握する上で評価できる取り組みである。カリキュラムマップについては、卒業までに身に着けるべき能力と、学習成果の繋がりが目視化でき、貴校カリキュラムポリシーにある、「体系的の学習」に大きく寄与するため、作成を行って頂きたい。
- ・中項目3-3 適切な評価が行われているように思う。第三者による教育評価を実施することで、教育改善を補完できると考える。
- ・中項目3-4 成績評価に関して、しっかりと標準化が行われているように思う。
- ・中項目3-5 教員の教育力、資質向上については、国家試験や検定試験、教科書の内容にとらわれない様、企業との交流(研修など)機会を増やし、多くの教員が最新の技術や業界動向、専門知識の習得ができるよう努めていただきたい。
- ・進歩が激しい業界において、動向を予測しながら対応をされていることご説明いただき、確認いたしました。

【課題】

ディプロマポリシー自体が評価基準寄りの表現となっており、本来の育成人材像を表す表現となっていない。

【改善の方法】

社会や時代背景により育成する人材像は流動的に変化する為、学校関係者評価委員や教育編成委員にて企業・業界団体の意見を取り入れ、継続してニーズに合った教育課程を編成・実施していく。

ディプロマポリシーについては育成人材像をふまえ、適切な表現に置き換える

基準 4 学修成果

学校関係者評価結果： 適正

【取り組み状況】

- ・年度開始前に学科会議で前年度の結果や評価を考慮し、学生に関する目標設定を行い、キックオフ会議で教職員が情報共有、周知できるようにしている。
- ・卒業生の専攻分野における社会的評価については毎年企業に入社後1, 3年目の卒業生を対象としたアンケートを実施し適応性や効果を確認している。また、卒業年次の学生を対象に早期離職防止セミナーを実施し就業前のキャリア形成を図っている。

【委員からの意見】

- ・就職担当教員や担任制のもとで、業務細分化され、手厚い就職支援が行われている点はとても評価できる。
- ・国家一級整備士は今後の現場業務において必要不可欠な存在になると予想される。合格率向上のため、カリキュラムや対策問題を検討して頂き、体系的なカリキュラム制作に尽力していただきたい。
- ・新卒者のファーストキャリアはとても重要であるので、早期離職防止に対する取り組みを実施して頂きたい。
- ・早期離職（ミスマッチ）を防止するための取り組みや、資格の合格率UPに向けた変更点（クラス単位・短期集中）は本校でも参考にさせていただきたい取り組みであり、成果についても評価できた。
- ・国家1級自動車整備士試験の合格率が安定していないことに対して、改善に向けた取り組みをお願いします。

【課題】

- ・国家1級自動車整備士試験についてはここ数年出題傾向が変わっており、合格率が安定していない状況。さらなる傾向問題対策を実施し、改善を図る。
- ・内定後、整備士の仕事内容についての理解不足による早期退職がみられる。

【改善の方法】

- ・近年の傾向を分析した上で対策を施し、整備知識（診断能力・新技術）について理解の充実を行うと共に学生のモチベーションアップを図る。
- ・早期離職防止の取り組みとして企業や業界団体からの講演や研修会の機会を設けるなど学生の職業観の醸成を図る。

基準 5 学生支援

学校関係者評価結果： 適正

【取り組み状況】

- ・学生の修学支援や進路支援については担任及び就職専任スタッフにより適切な支援を行っている。
- ・学生の健康管理を担う体制として定期的な健康診断の実施やAEDの設置に加え、学生の生活環境への支援として直営・提携寮の設置を行っている。
- ・保護者に関しては担任を軸に保護者会や3者面談などを実施し、連携を取っており、卒業生・社会人に関しては校友会組織の設置や再就職支援、国家試験対策といった体制を整備している。

【委員からの意見】

- ・就学支援、進路支援について、適切に運用が行えているように思う。
- ・特に学生相談について、学生の多様化が進む中、カウンセラーの設置を行っていることはとても評価できる。

【課題】

成績優秀者を対象とした学校独自の学費免除制度の告知タイミングが学期末近くとなっており、学生のモチベーションアップにおいては効果的に運用できていない。

【改善の方法】

制度自体の存在や対象学生を学内全体に周知する。報奨内容についてはより学生のモチベーションアップにつなげられるものを検討する。

基準 6 教育環境

学校関係者評価結果： 適正

【取り組み状況】

- ・法令に則り、教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、学校設備・教育備品・教具の一覧表及び点検表にて管理体制の組織図維持・管理、安全・衛生を確保している。
- ・図書室・図書コーナーについては5Fのリフレッシュルームに図書コーナーを設け、一部資料を貸し出している状況。

【委員からの意見】

中項目 6-1

- ・自動車整備業界の性質上、施設・設備が充実していなければ、質の高い教育を行えないと思う。経営上難しい点もあると思うが、積極的に環境の整備を実施していただき、より良い学習環境を学生に提供いただきたい。
- ・人間力を成長させるうえでは「言葉のインプット」は大切であるため、図書室及び図書コーナーの整備は早急に検討いただきたい。

中項目 6-2

- ・今年は新型コロナウイルスの影響により、オンライン授業が導入されたと思う。今後はITハード面の環境整備にも尽力いただきたい。
- ・図書室・図書コーナーについては、学生たちにどのように利用・活用して欲しいのかという教職員の思いやビジョンがもっと発信されると改善が加速するのではと感じられた。

【課題】

学内の図書室・図書コーナーの現状を調査した所、開校当初に設置した図書室が活用されておらず書籍・資料が分散している状態にあり、図書室の機能が不十分。

【改善の方法】

次年度は学内の図書室・図書コーナーについては所定の場所を検討の上決定する。また保管する書籍については保管対象の書籍を新規購入し既存のものを選別する予定。
その他施設設備についても実践的な授業を実施できるよう改善を検討する。

基準 7 学生募集

学校関係者評価結果： 適正

【取り組み状況】

- ・入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を策定し、募集要項やホームページを通じて学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表している。
- ・募集活動においても、パンフレット、ホームページを通じ検定合格状況、就職状況などの教育成果を正確に伝えている。

【委員からの意見】

- ・適切な運用が行われている。
- ・学生募集においては、（営業、就職、現場）などが連携し、三位一体の活動を行うことが重要である。情報を確実に共有し、ベクトルをあわせた運用を今後も実施いただきたい。
- ・積極的な海外人材受け入れに取り組まれていること確認いたしました。この活動においてよりグローバルな人材育成に取り組まれることを期待いたします。

【課題】

留学生対象の新設学科の設置に伴い、多様な学生の受験が見込まれる為、入学者選抜方法については必要に応じて見直しを図る必要がある。

【改善の方法】

留学生を募集している学校（グループ校及び各種専門学校）の情報を収集し、アドミッションポリシーに則した募集活動を行っていく。

基準 8 財務

学校関係者評価結果： 適正

【取り組み状況】

- ・教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立している。
- ・予算計画は有効かつ妥当なものとなっており、予算執行に伴う効果を分析・検証する仕組みの確立がなされている。また、財務情報公開の体制を整備し、適切に公開している。

【委員からの意見】

- ・適切な運用が行われている。
- ・不確実性が多い状況の中でも、安定した財務基盤を確保するための取り組みを今後も継続して行っていただきたい。

【課題】

現状特になし

【改善の方法】

今後も継続して財政的基盤を確立していく。

基準 9 法令遵守

学校関係者評価結果： 適正

【取り組み状況】

- ・法令等遵守に関する啓蒙や教育が教職員に対して適切に実施され、教職員は法令遵守を理解し、規定に従っている。
- ・法令改正等に応じた法令等遵守規程類の見直しが適時適切に行われ、法令等遵守義務や違反に対する処分等が規程の中で明確にされ、問題発生に対応する通報システム等の体制も整っている。

【委員からの意見】

- ・コンプライアンス遵守を理解し、適切な運用が行なえている。
- ・法令遵守教育については、定期的に行っていただきたい。

【課題】

現状特になし。

【改善の方法】

教職員が定期的に法令遵守に関する研修会へ参加し、全教職員の理解を深めていく。

基準10 内部質保証

学校関係者評価結果： 適正

【取り組み状況】

- ・学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、重点項目を定め課題解決に取り組んでいる。
- ・学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、意見を集約し、改善の取り組みを行っている。
- ・自己点検・評価及び学校関係者評価の結果をホームページ上で公表し、社会に対する説明責任を果たしている。

【委員からの意見】

- ・制度に基づいて、適切に運用されている。
- ・変革（改善の取り組み）を行う上では、組織メンバー全体が問題を共有することがスタートであり、最も重要なポイントである。定期的に自己点検・評価の内容を伝える「場」を設け、組織全体で問題解決に向かって取り組んでいただきたい。

【課題】

自己点検・評価の重点項目については教職員全体への共有が年度初めのみとなっており、教職員間で目標意識の差がみられる為、効率的に改善を行えていない。

【改善の方法】

自己点検・評価の重点項目については改善策の実施状況の中間・結果を全教職員に全体会議の中で定期的に共有する。

基準 1 1 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価結果： 適正

【取り組み状況】

- ・ 公共的な機関として、日本赤十字等 団体への支援や、国内外からの教育施設見学受入など積極的に社会貢献を進めている。社会貢献・地域貢献を行っている。
- ・ 1級自動車整備科においては3年次に、学生の地域貢献として、教育内容を生かし、小学生を学校に招いての職業体験イベントを開催している。

【委員からの意見】

- ・ 学校公開日のようなもの（誰でも年齢問わずに見学に来れるような日）があれば、気になっている方などには、どんなものの中にあってどんな生徒がいるのか、閉鎖的ではなくなりいいのではないかと思います。
- ・ 評価委員でも親でも実際に学校での授業風景など通常の運営は見たことがない人がほとんどだと思いました
- ・ 小学生対象の整備士の職業体験を実施せれていることは、社会貢献や学生のコミュニケーション力向上の面において評価できる。学生全体でも献血など実施しているので地域貢献度は高いと感じる。
- ・ 今後は現在行っている活動に留まらず、対象範囲を広げる取り組みを検討いただき、積極的に実施していただきたい。
- ・ 東光小学校との交流ありがとうございます。今後ともよろしく願います。また、中学校や校区事業等への交流や参加等があれば検討頂ければ幸いです。

【課題】

ボランティア活動の中で単位認定されているものとそうでないものがある。

【改善の方法】

対象範囲を広げるなど新たな取り組みを常に検討していく。

基準12 国際交流

学校関係者評価結果： 適正

【取り組み状況】

- ・留学生の受入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っている。
- ・留学生に対する相談体制として、各クラスに担任及び担当主任が在籍しているものの情報収集するツールとしては全学生を対象に在校生アンケートを実施しているにとどまっている。

【委員からの意見】

- ・留学生の受け入れには、様々なリスクが伴うと思う。管理体制や制度をさらに強化し、リスクヘッジを行っていただきたい。
- ・委員の方からの質問にもありましたが、高校教育の現場でも読解力や英語力の向上が求められている。このような委員会で産学様々な立場から意見交換が進められていけば、生徒・学生たちの目指すところが明確となり、さらなる学習効果も期待できるのではと感じた。高校に対しての要望等もいただければと考えている。

【課題】

教務にて留学生、日本人を特に区分せず、全学生を対象に在校生アンケートを実施しているにとどまる。

【改善の方法】

次年度は留学生クラスも増え、留学生在校生も増えるのでこれまで実施していた既存のアンケートと併せて留学生在校生向けに満足度調査アンケートを開発して実施する。

以上